

百舌鳥古墳群探鳥会資料

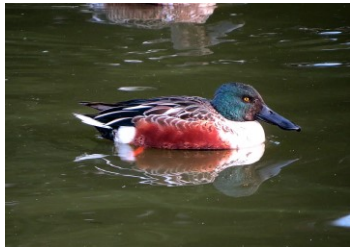
I. 百舌鳥古墳群探鳥会で出現が予想される野鳥



オシドリ



ミコアイサ



ハシビロガモガモ



ホシハジロ



カムリカイツブリ



カワセミ



キヤモクイ



シジウカラ



ジョウビタキ



エブ



チュウダイサギ(留鳥)

チュウダイサギは脚全体が黒い。膝関節が肉色を帯びていてもふしよは黒い(『日本の野鳥』山と溪谷社)



オオダイサギ(ダイダイサギ)(冬鳥)



オオダイサギ(腿ももと跗蹠ふしよ)

オオダイサギは体がやや大きく、脚のもの部分とふしよのうしろ半分が淡黄色(財日本鳥類保護連盟『鳥類図鑑』)

百舌鳥古墳群と野鳥について

百舌鳥古墳群は、現在44基の古墳からなっています。面積では国内最大の大山陵古墳をはじめ、第3位の履中天皇陵古墳、第8位のニサンザイ古墳等があります。

今回の探鳥会では、その内、御廟山古墳、履中天皇陵古墳、七観音古墳、グワショウ坊古墳、旗塚古墳、孫太夫山古墳、大山陵古墳を巡ります。

鳥類では留鳥として、ダイサギ、アオサギ、カルガモ、ミサゴ、オオタカ、バン、キジバト、ヒヨドリ、シジウカラ、メジロ、カワラヒワ等が生息します。

特にオオタカは夏期にも大山陵古墳や履中天皇陵古墳で確認されており、繁殖の可能性があります。

冬鳥としてオシドリ、マガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、ミコアイサ等のカモ類やノスリ、シロハラ、ツグミ、アオジ、アトリ、マヒワ、シメ等が渡来します。

特に、オシドリは履中天皇陵古墳と大山陵古墳の池に渡来します。オシドリは、大阪府下では、平地や丘陵地で、ドンダの実をつけるブナ科の照葉樹が池畔に繁茂している人造池を好んで飛来するようです。